

斑目りん

Rin madarame

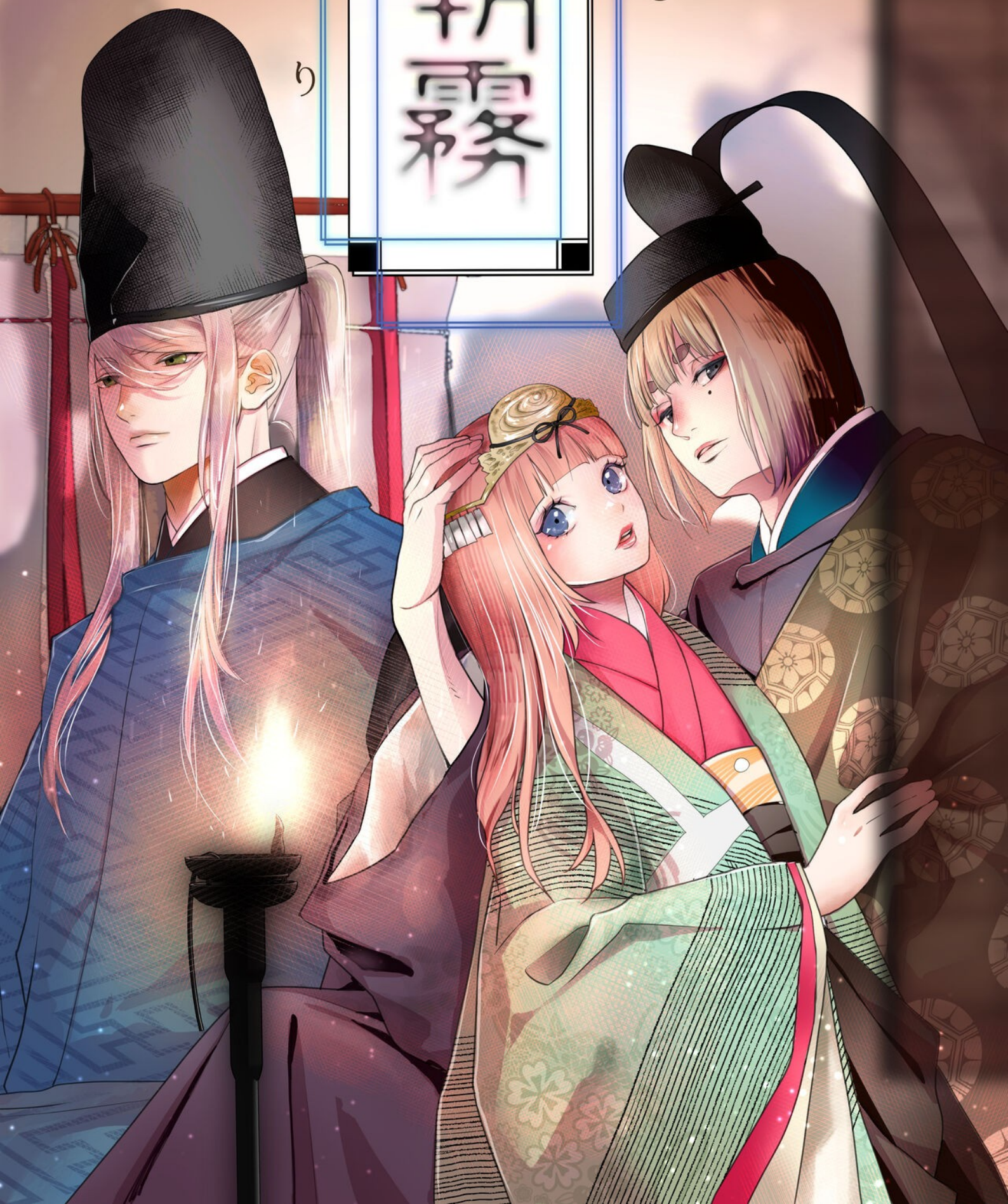
あ

き

り

さ

朝霧





あさぎり
どうして朝霧が
ここに…!?

カ
ク
ニ
ク



こたび
此度の初夜の
ねやしなん
閨指南兼見届け役の
朝霧にございます

今宵の初交の儀が
滞りなく
執り行われるよう
ご指南させて頂きます

朝霧が
閨指南役…!?

時は遡り

きのくに
季ノ国

今日はその
みかど
若き帝の婚礼の儀

おお：
なんとまあ
凛々しいお姿ぞ

ご即位の際も
見事であったが
今日はまた一段と…

さすがは
こはく
琥珀様

それにしても
二人並ぶと
なんと雅な…

香凛様

これは早くも
お世継ぎが
楽しみじや

年齢十七にして崇敬的

そんな帝に
幼い頃から嫁ぐ事が
決まっていた許嫁

香凛

そして私は

優れた才覚とその威厳から
「待望の主上」と謳われる
湖珀様は私よりいくつも年下

苦しゅうないか？
あともう少しじゃ

わしは早く
横になりたいわ



はい
琥珀様
お心遣い
ありがたく

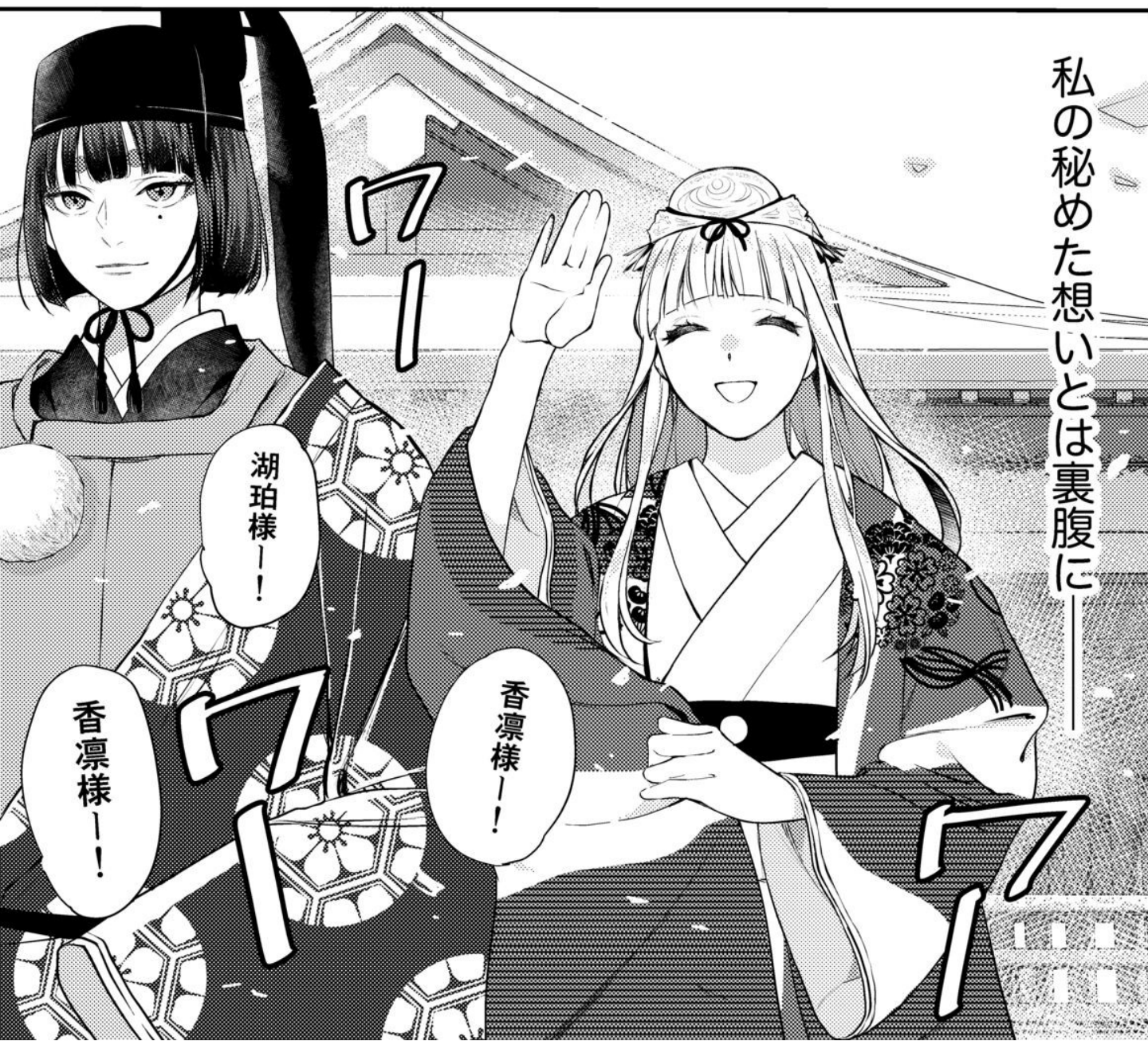


私の秘めた想いとは裏腹に――

琥珀様――！

香凛様――！

香凛様――！



ご立派に
ございました
香凜様！

私達も
鼻が高いです！

皆が口々に
申しておりましたよ
美男美女だって！

本当？
ありがとう

あの天真爛漫な
香凜様が…

おお
おお
おお

ついに
皇妃様に…

夢のようで
ございます

はひあひ♡

ありがとう！
ばあやのおかげだわ

それにしても
凄かった
ですね！
民があんなに！

婚礼の道中

その時でも
私はずっと
探してしまっていた

その湧き立つ
人々の中に
あのお方のお姿を――

朝霧！

朝霧！

今日はあそこの橋まで
行ってみましょう！
鯉が見たいわ

た・た・た

香凛！
走ったらいけない
危ないよ

この前転んだ
ばかりじゃないか

きやあ！

とてい！

思えば随分
お転婆だったわ
あの頃は

くす
くす

それに比べて
朝霧はいつも

香凛——！！

大丈夫よ
今日は朝霧が
一緒なもの

ほら
急いで急いで

香凛

私は
この婚礼の儀を境に
貴方を忘れます

朝霧様……

ずっとずっと好きだった
自分がいずれ帝に
嫁ぐ身だと分かってからも

ずっと秘かに

ああっ
朝霧！

いけない！
また「様」を忘れてるわ！
「朝霧様」！

もう
大人なんだから

名家のご嫡男である
朝霧様とは家柄が近しく
幼馴染の間柄

大人になるまで
ずっと一緒だった

けれど
朝霧様を
想うのは
これが最後

そして私は
琥珀様の良き妻に
なるのよ！

若き帝を
支えるんだ…！

もう迷わない！！

待ってて！
琥珀様！

アッ
ッ



香凜様

それではこれより
湯殿にてお身体を
お清め頂きます

整いましたら
お声がけ下さいませ

ふう…

いよいよだわ

ついにこの時が…

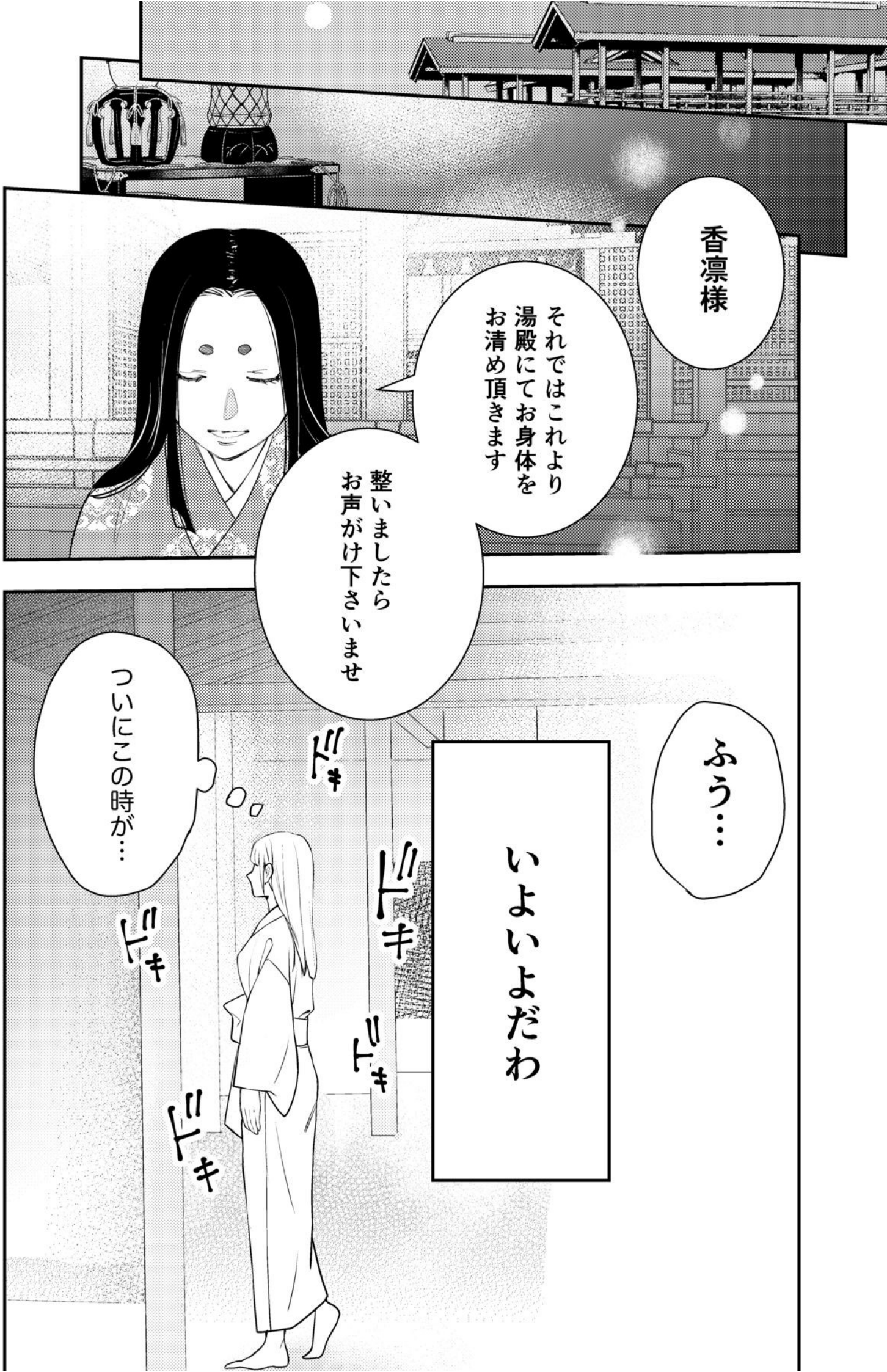
ドキ

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ



初夜……

イロちゃん……



大丈夫
覚悟は出来てる

でも
最後に一目

朝霧様にお会いしたかったなあ…

この国では

天上人の閨^{ねや}は
何より神聖なものと
されてきた

それ故^{ゆえ} 初夜において
帝とその妃は
無垢である事が絶対

古くから代々伝わる
しきたりである

そして
その神聖な初夜を見届け
執り仕切る者が存在する

閨指南役である

そして

その指南役には
もうひとつ
更に重要な任が――…

閨の方さま
宜しいでしょうか…

…はい

香凜様 お仕度
整いましてございます

承知
致しました

では
香凜様入られます

スッ

香凜様
どうぞ中へ

暗い……

香凜様 先にお入りの
閨の方様としばし帝のお越しを
お待ち下さいませ

…やっと目が慣れ…

…え？





朝霧…!?

どうして
ここに…っ

此度の閨の指南役
兼見届け役の
朝霧にございます



今宵の初交の儀が
滞りなく執り行われるよう
ご指南させて頂きます

何卒
ご容赦
くださいませ

えっ…

うそ…
朝霧が閨指南役…!?

聞いてない…

そんな事今まで
一言も…

…どういう事…?
まさか朝霧の前で…

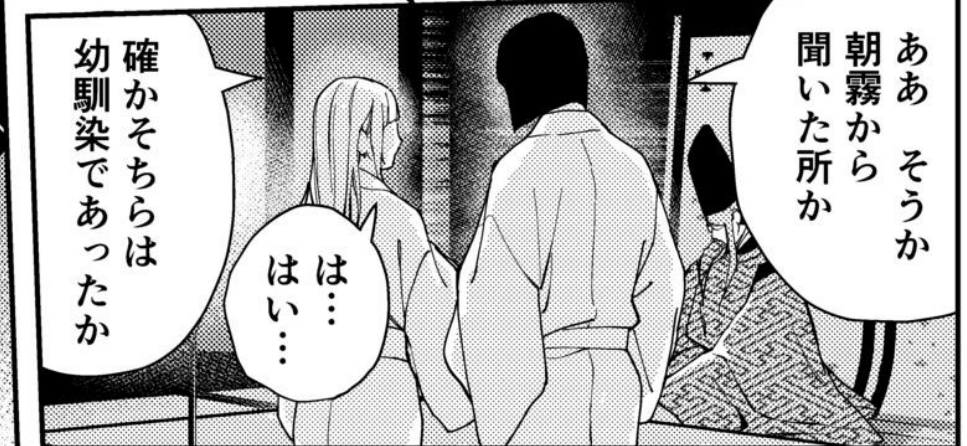
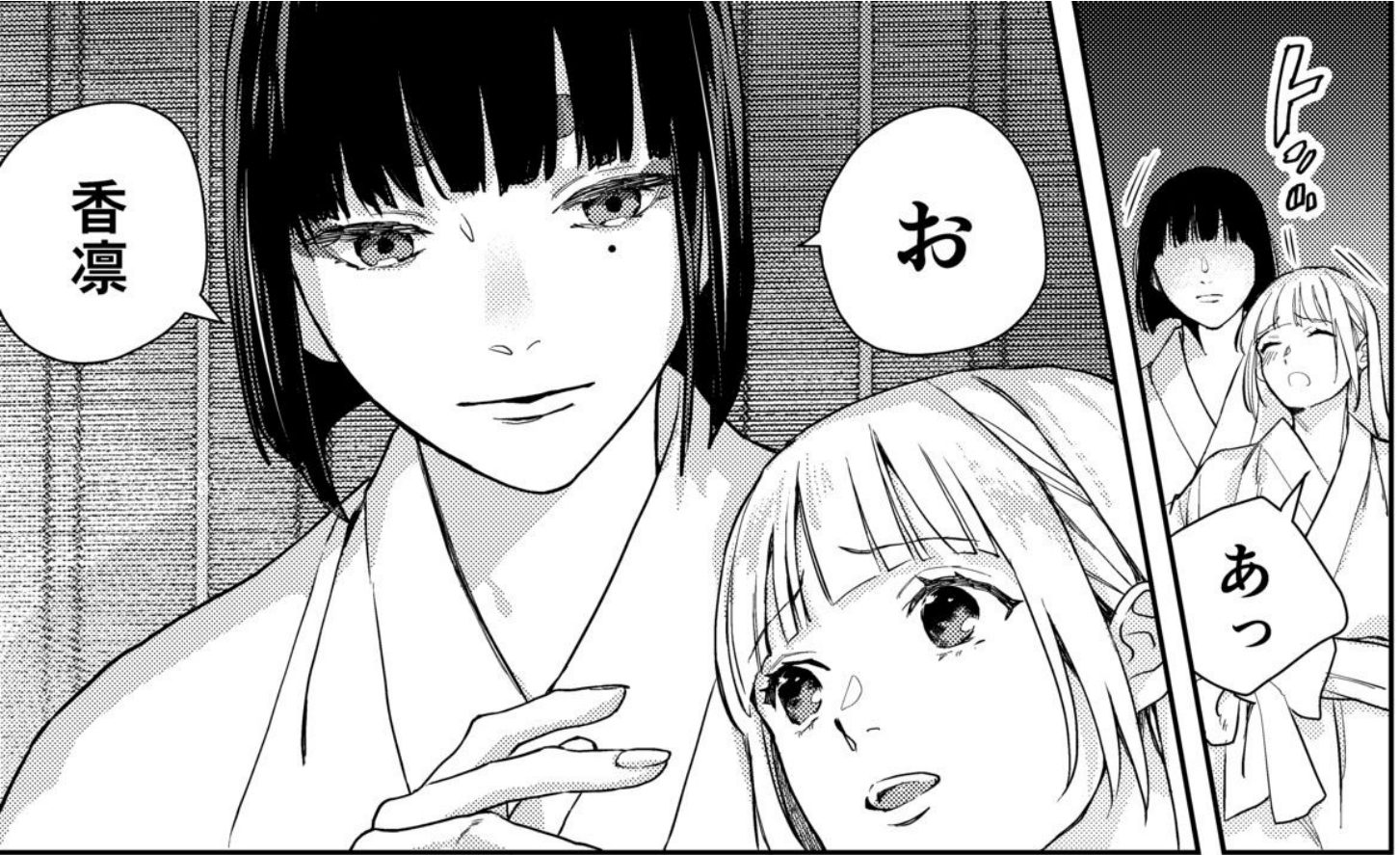
嘘でしょ?
そんな…

指南役って…
てっきり
女性の方だとばかり…

何かの
間違いじゃ…

あ…

…あさ…



朝霧…

そうか
それはまた…

香凛は今しがた
知ったのであろう？

はい…

それは驚いたで
あろうな

はい…

香凛様

この指南役の件は
重要な秘事ゆえ香凛様にも
今まで伏して参りましたが

これは
当家嫡男ちやくなん生まれながらの
神聖なお役目にございます

微力ながら
力を尽くしますので
宜しくお願い申し上げます

うむ

おもはゆ
面映いかも
しれぬが
ひとつ頼むぞ

香凛

不安か？

…そなたもそうで
あろうが…

……っ

わしはこれまで
まともに女体を見た事も
そのまぐわいの過程も
知らされておらぬ

神聖なものゆえ
いたずらに知識を得ては
いけぬと
言われてきたのでな

しかし
子を成す事は
我らの務め

そうであろう？

…はい

なに
心強いではないか
指南の者がいて

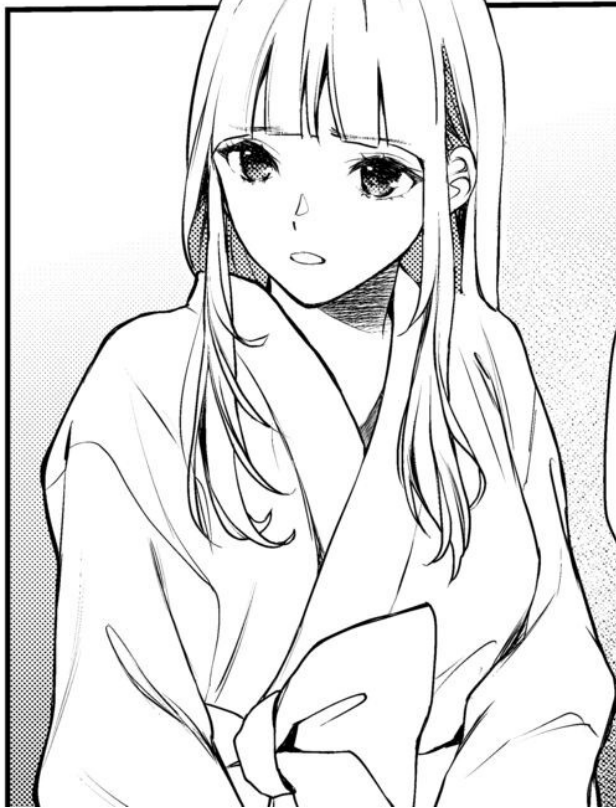
それに…



閨の覚悟など
とうに出来ているで
あろう？

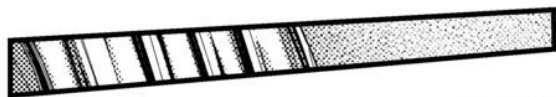


もちろん覚悟は出来ている



…はい

もちろんに
ございます





朝霧

これは
口に含んでも
よいのか？

どうぞ

ひあっ

いちゃい

あっ

クチ

クチ

ああっ

…良いな

もっとじゃ

いやっ

声がいっぱい
出ちゃう…っ
はしたないわ…っ

あっ

琥珀様

お次は
こちらにも

ん？

ああ

ん

はっ

香凛様

失礼
致します

きやつ

…！

こちらを優しく
愛撫して
差し上げると
宜しいでしょう

カ
ア
ア
ア

うそっ…

こんな格好…っ

恥ずかしすぎて
消え入りたい…！

…これは…
また…

…っ

ド
ギ
ギ



…こちらの

蜜が溢れ出したる
穴が陰門

琥珀様の玉茎ぎょっけいを
お挿し込みになる穴に
ございます



玉茎を突き立て
中に入られた後は

ひたすらに
突き上げの動作を
繰り返します

そしてそのまま
中で果て
子種を注ぐ…



触ればよいか？

はい

やっ…

触るはもちろんです…

とても敏感な
箇所ゆえ口でも
よろしいかと



…そちらは
陰核

女人の
特に宜しい部分に
ございます
よくよく愛でられませ



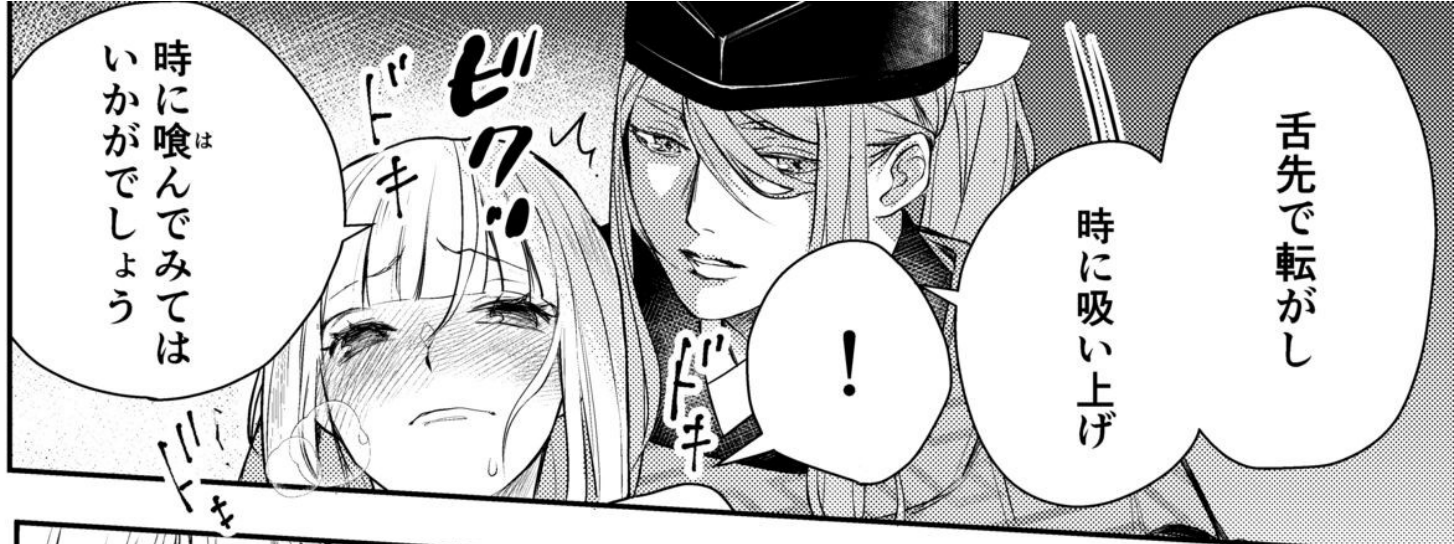
…というのが
一連のまぐわいの
流れにございます

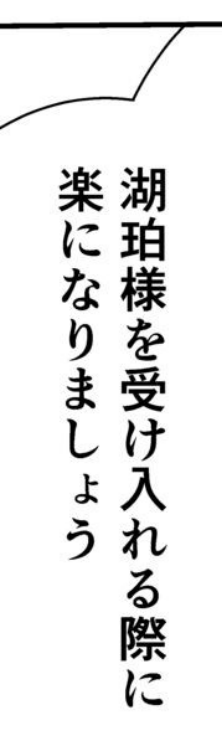
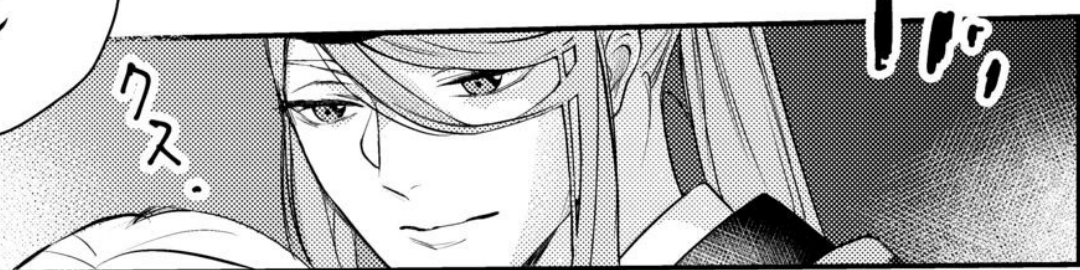
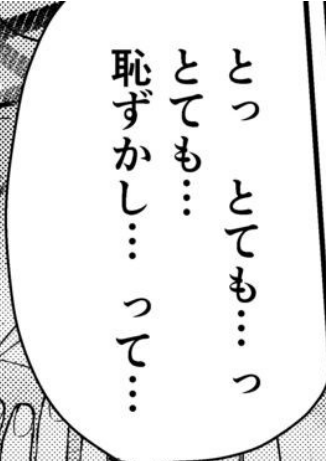
…分かった



しかし
不思議な形じゃ…
初めて見る

ひあっ







なるほど…

湖珀様

うーっ



めろっ

ーっ



そうか
沢山恥じらうと
よいのか

ここを
濡らすのが

ああっ

ちゅっ

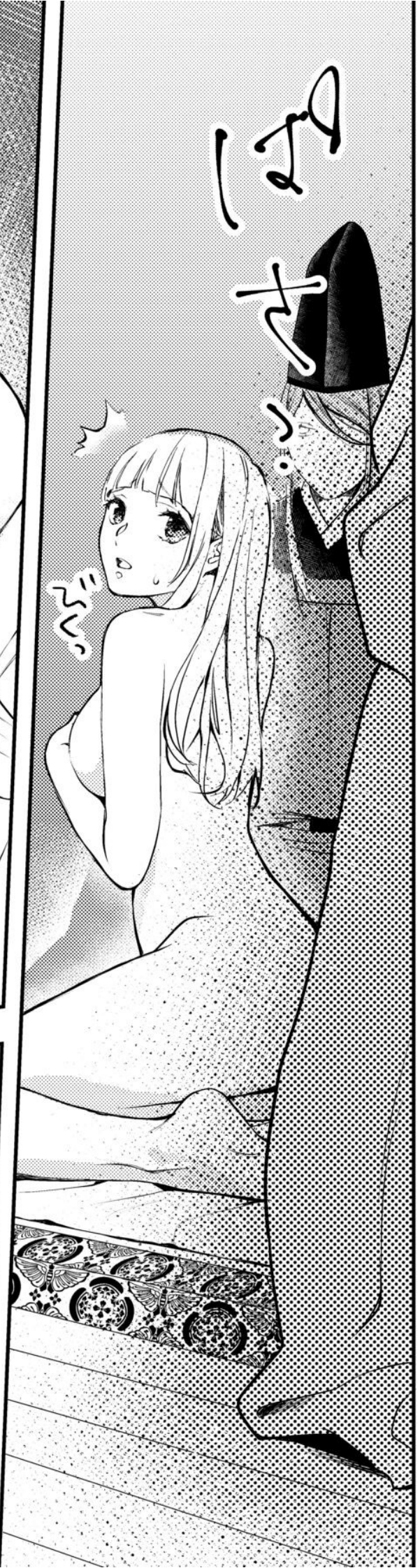


頃合いかと
存じます

そろそろ

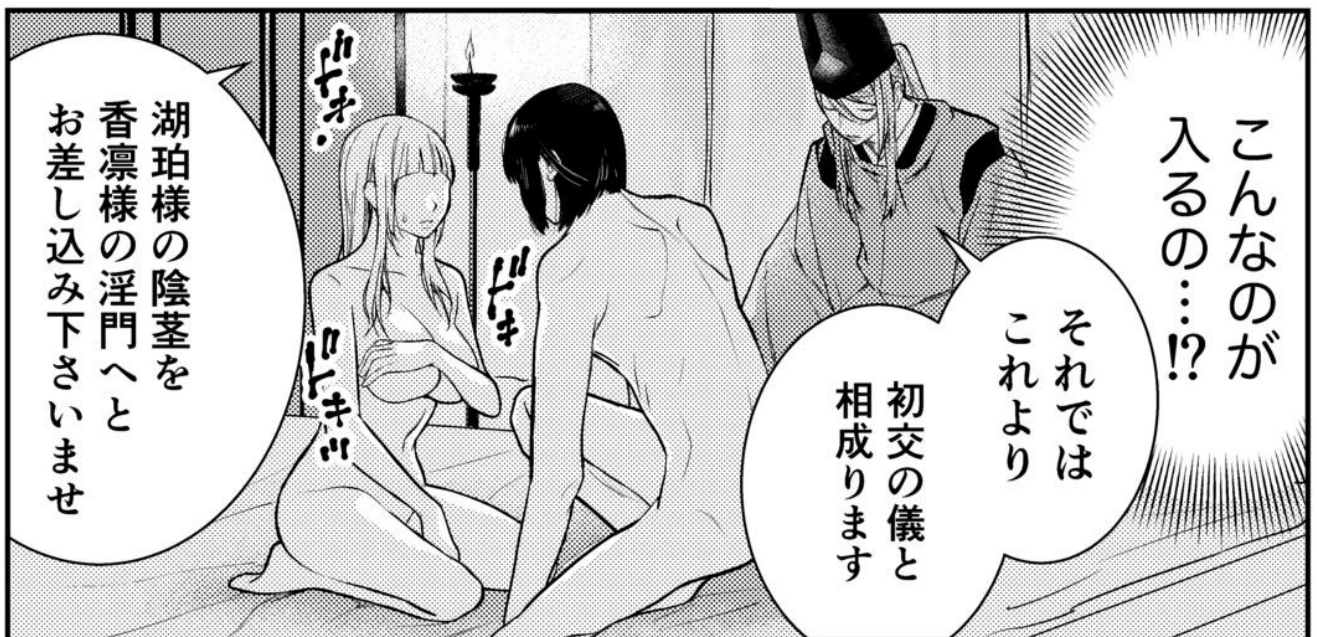


うむ





うそ…

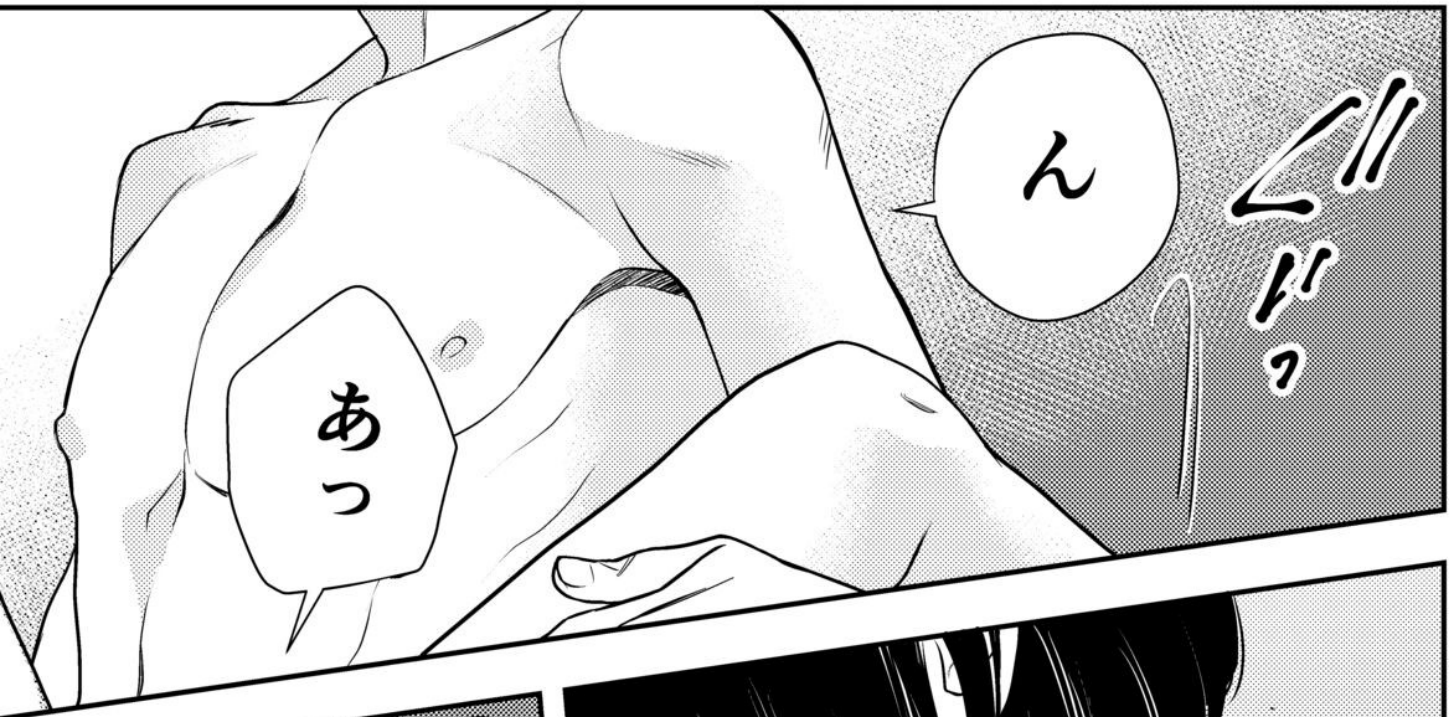


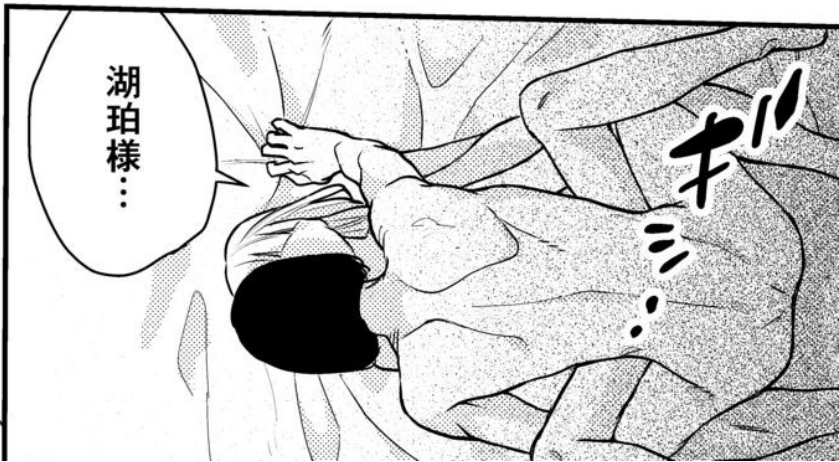
こんなのが
入るの…!?

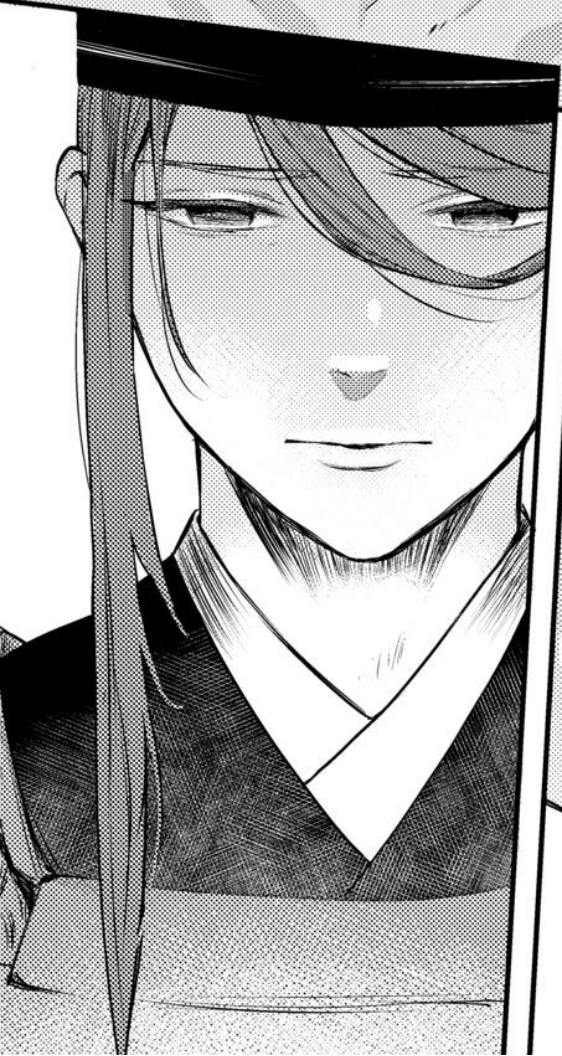
それでは
これより

初交の儀と
相成ります

湖珀様の陰茎を
香凛様の淫門へと
お差し込み下さいませ

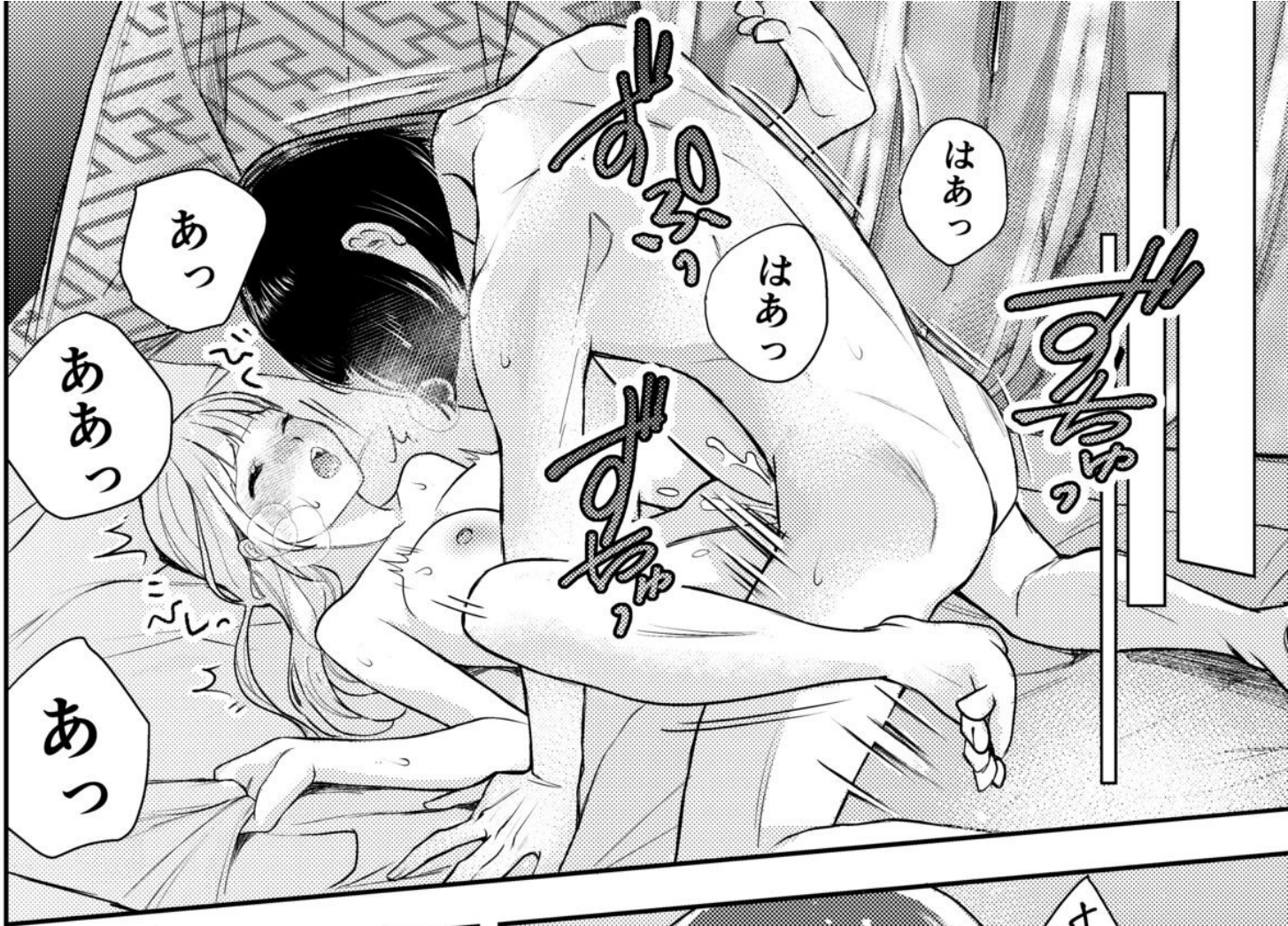












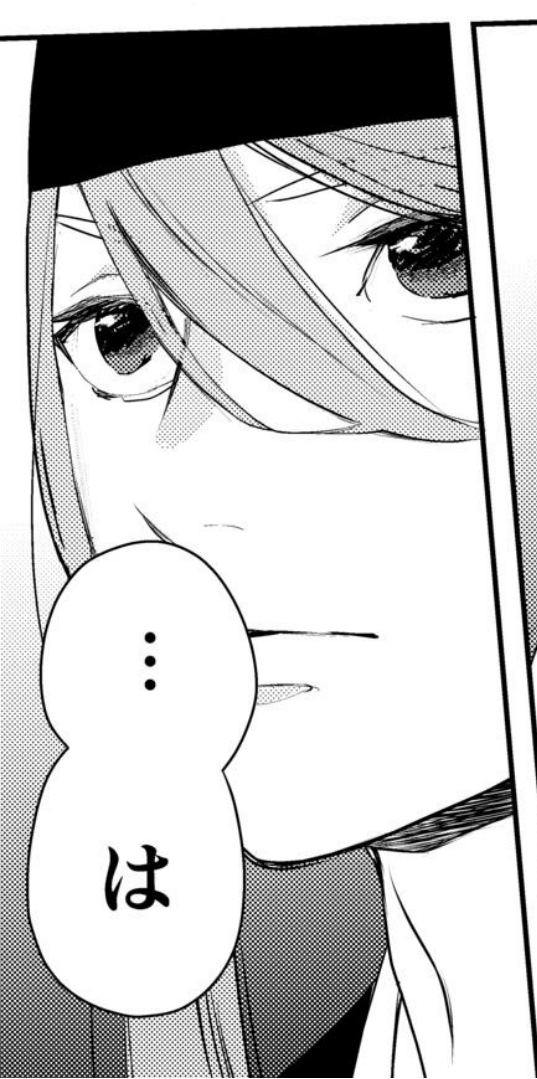






…朝霧

…朝霧…!

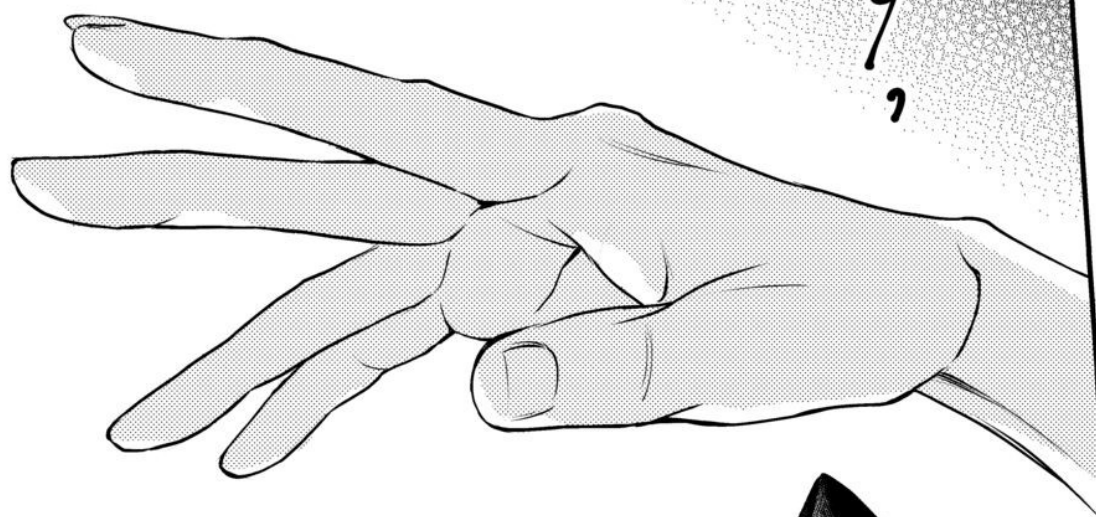


朝霧!

いっ
っ
。

では
香凛様

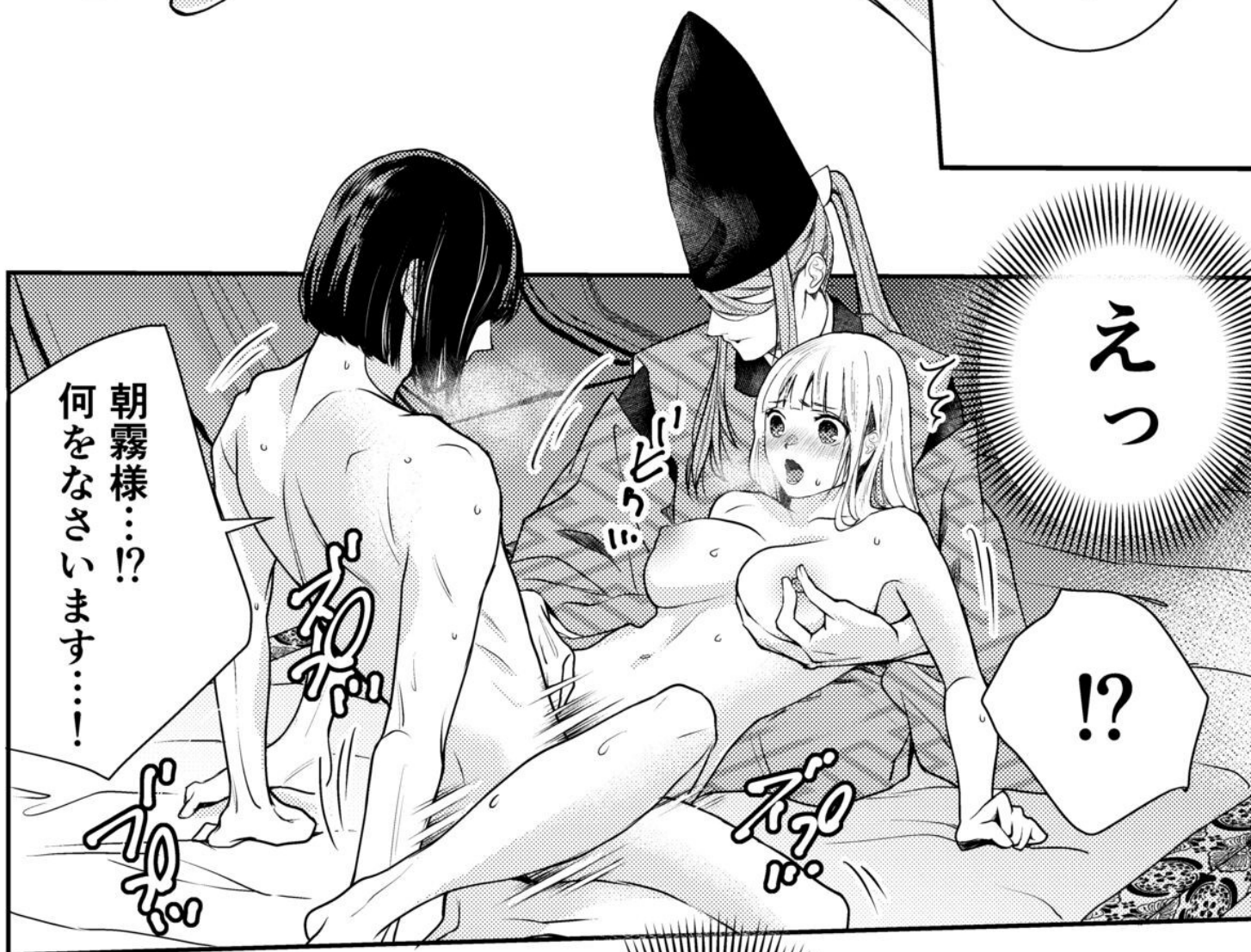
失礼致します



えっ

!?

朝霧様…!!
何をなさいます…!!



あ、
触れられた所が
あつい…っ

どうして…っ

はっ

あ、

朝霧に
触られてる…!!
二箇所を同時に…っ

ああっ



はあ

はあ

はあ

はあ

おめでとう
ございます

無事初交の儀
ご成就にて
ございます

……
そんな事はよい

……

それよりも
今のがそうか？

はあ

はあ

はあ

はあ

はあ



ちようど良い
香凜

この際だから
話しておこう

はい…

お主も知っておろうが
この閨の目的は
世継ぎを授かる事じゃ

わしは女児でも
一向に構わぬが
それも務めじゃ

はい

?

いいえ…

して

男児を孕む為には
何が必要か
知っておるか?



おなご
女子が
達する事

なんじゃと



この国では
まぐわいにおいて
女子が絶頂に達する事で

男児が生まれる確率が
格段に上がると
伝えられております

え…？

女子が達するって…

朝霧

もしかして
さっきの…？

はい

そして

そのお役目を
担っておりますのが
この私…

私は女体を絶頂へ
導く手管を仕込まれて
おりますゆえ

閨の際
お妃様が果てられますよう
お仕えするのがお役目に
ございます

香凛様には
何卒ご容赦頂きたく…

なっ…

私を果てされるのが
朝霧の役目…!!?

カアア…
そんな…!

翌日

全っ然

眠れなかった…

あんなに
疲れてたのに…

チュン
チュン

香凛様…
すごいくま

大丈夫ですか？

ありがとうございます
平気よ 気にしないで

しゅばい

…だってこんな事って
ある…？

ただでさえ
緊張の初夜
だったのに

まさか朝霧が…

「香凛様」

「香凛」

あら？

サワ
サワ

わあああ
ああああ

？

悶絶

まあ！朝霧様ですわ
どうりで外が
騒がしいと思ったら

！

謁見かしら？
ご挨拶
されますか？

あ！大丈夫よ
ありがとう

昨日で
会ったなんて
言えない

サッ

…いつもの朝霧だわ

…昨日はあんなに
難しい顔してたのに…

あゝ 香凛様になりたい
朝霧様と幼馴染で
その上湖珀様にお嫁入りだなんて
設定が贅沢すぎるわゝゝ
とても香凛様の前では
言えないけれどゝ

あゝ

つつ

全部
聞こえてるわよ

あゝ
朝霧様って本当に素敵

そうよね
あれでいてまだ
お独りだって
いうんだから
そりゃあね

ねゝゝ

私

これからどうしよう…

それから朝霧とは
個人的に話す機会などなく

彼が何を
思っているのか

今まで何を
感じていたのか

知る由もなく

夜伽の逢瀬だけが
重ねられていった



私はどうして
こんなにも

あ、
ぽん、

おん

あ、
ぽん、
あ

どうにか
なつて
しまふの

さあ

達せられませ

香凛様

うわ
うわ
うわ

うわ
うわ
うわ

うわ
うわ
うわ

うわ
うわ
うわ

朝霧……！

あ、
あ、

うわ
うわ
うわ

なるほど

子成す行為が
これ程までの快楽とは

よく出来ておる

色に溺れる者の
気持ち
分からなくもない

朝霧も好きか？

は

まぐわいは

私の事は……

……

あらゆる性技を
仕込まれていると
申していたが

それだけ沢山の女子を
抱いてきたという事で
あろう？

……

ドク





さて 今宵は

飽きるまでするぞ

香凛

わしはお主の
ここが好きじゃ

あっ

一晩中でも
愛でられる

二本も
入ったぞ
…すごいな

ひあっ



あああっ

なにこれ
…っ

すごい所に
当たる…っ

まっ…
また…っ!!

指を?
こうか?

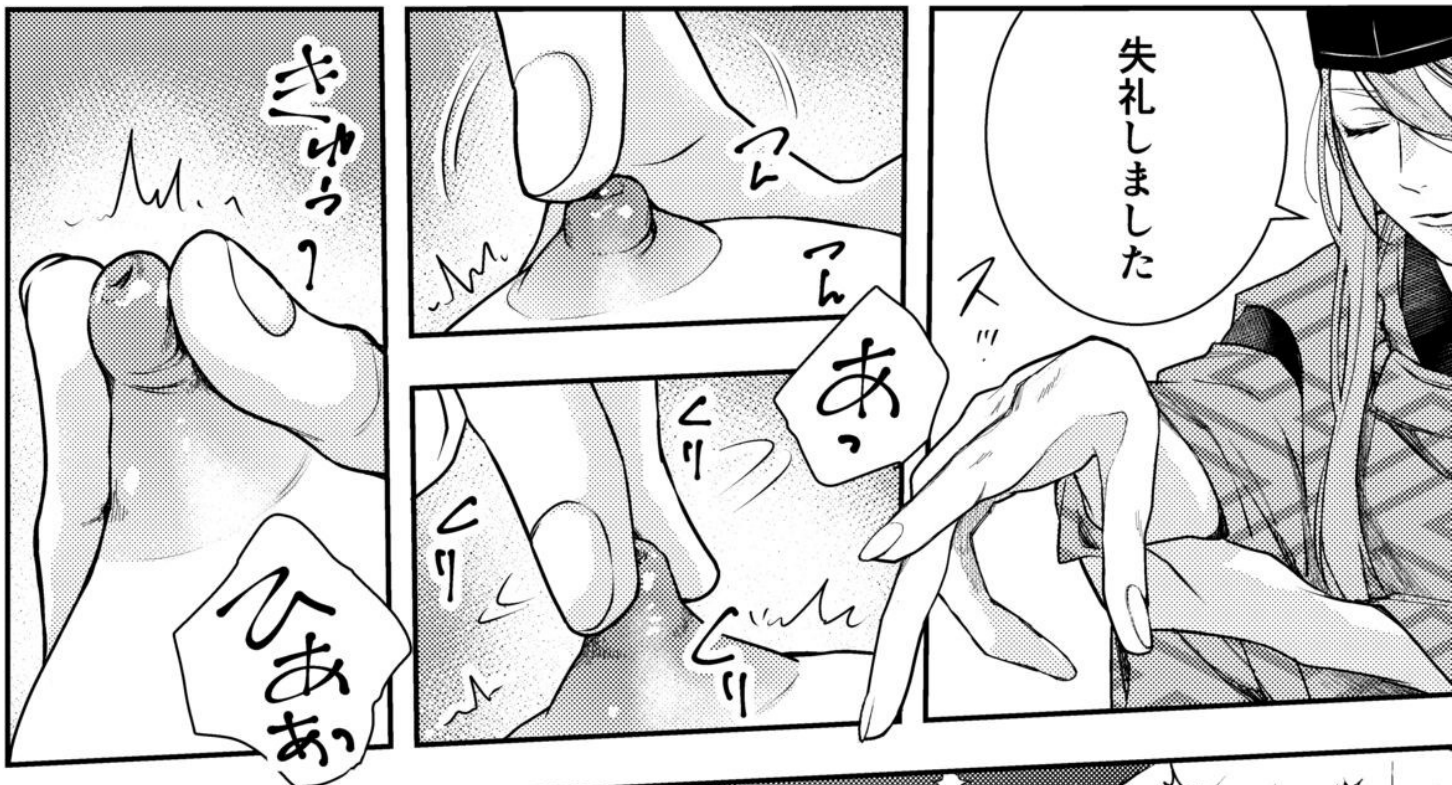
指の腹で
こちら側の天井を
擦り付けるように…

そのまま…

失礼します
湖珀様

はっ

ん?





はあ

はあ

はあ

…朝霧の
大きくて綺麗な手…

この手が…

私の知らない所で
「沢山の女子を」…

スッ
ッ

スッ
ッ

スッ
ッ

スッ
ッ

あッ

深い、

あッ

あッ

あッ

あッ

スッ
ッ

スッ
ッ

すっ
ッ

スッ
ッ

自己嫌悪……

こんな気持ちに
なるなんて

でも

『沢山の女子を
抱いてきたので
あろう?』

ブォッ

誠実でありたいと
思っているのに……

このままではいずれ
琥珀様に悟られて
しまう

そうなる前に
断ち切らなければ

きっと朝霧は

私の知らない所で
ずっとこの責務の為に
生きてきたんだわ

いずれ私の閨を
目の当たりに
する事を知りながら

どんな気持ちで…

思えばいつも
どこか物憂げだった

その物憂げささえ
素敵だなんて呑気に…

……

幼い頃から一際
賢くて大人だった朝霧

優しいけれど…
側にいても
どこか遠くに
いる様だった

相変わらず
目も合わないし…

それに比べて
琥珀さまは…

真っ直ぐに…

私を見ていてく
れ
て
い
る
様
な
気
が
す
る

あの若さで私を
気遣う
余裕があつて

生まれながらの
気品に加え
器の大きい方…

なんだと思う

このまま湖珀様に寄り添って
仲睦まじい夫婦になりたいかった

…いや、今からでも
なるべきだわ

やめましょう
もう余計な事を
考えるのは

フゥッ

私は帝の妃

あら…?
…何だか身体が…

……大丈夫

余計な事は

考えない

まあ！香凛様！
どうされました!?

大変！

すごい
お熱……！

香凛様！

香凛様！

香凛様……！

はたん



……りんさま……

……かりんさま……

これは夢……？

……お許し下さい
香凛様……

お役目を投げ出す
この私を……

この声は……
朝霧……？

はあ

はあ

……平気に
ございますか……

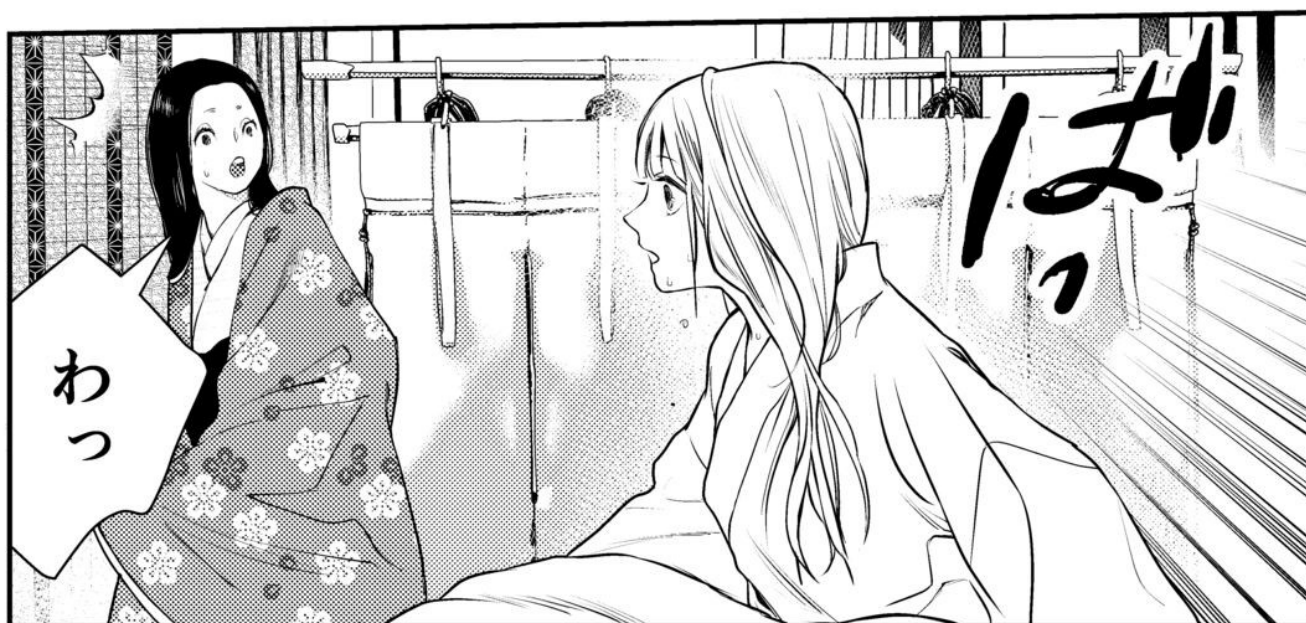
……誰？

……けれど
気付いてしまった以上
もうここには
いられません……

何の話を
しているの……？

さようなら…

香凛



誰かここに
来なかった!?

まあまあ
元気に
起きられて

もうよろしいの
ですか?

それよりもっ

そして
後日の閨

?

いえ?
誰も?

今は
私わたしだけです

朝霧...?

あれは夢...?

そうだわ
冷静に考えれば
朝霧がこんな所に
来るはずがない

何だったの
今のは...

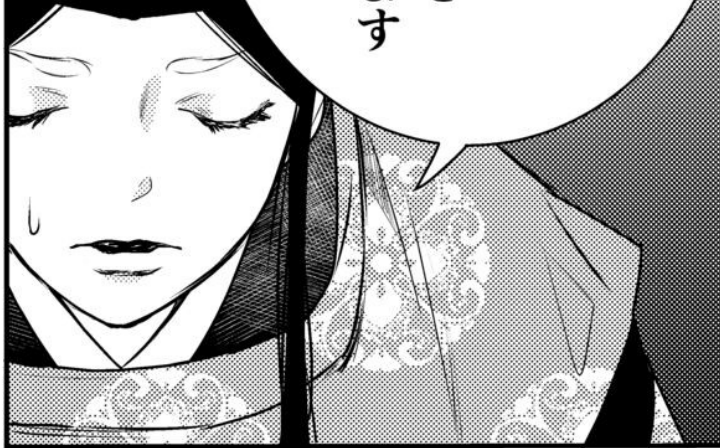
でも

あれは確かに朝霧の
声だった...

え...?

朝霧が弟
柏木にございます

不肖の兄・朝霧に
代わりまして
今宵より指南役を
務めさせて頂きます



え…？

柏木様…

朝霧様の弟君の…

あの…

…え？

…朝霧様は…

「さようなら、
香凛」



はっ

やっぱり何か
あったんだわ！

香凛

これは一体
どういう事に
ございますか！
朝霧様は…っ

実は先刻

朝霧より指南役を
降りたいとの申し出が
あった

え…？

詳しくはこれからじゃが
どうしても務まらぬと
申しておるでな

急遽今宵は
柏木に務めて
もらう事にした

なに 問題ない
不測の折には弟でも
務まるよう控えておる
家系でな

わしは
別に構わぬ

……っ！

おっ…

お待ち下さい…！
湖珀様…！

朝霧様の
身に何か…っ

何があったので
ございますか

訳をお聞かせ
下さいませ…！

……

…香凛

そなた

！



そんなに
朝霧が好きか？



己の立場も忘れ
追い続ける程に

そなた今 自分が
どんな顔をしているか
分かっておるか？

はっ

……！

柏木下がれ！
今すぐ朝霧を
連れて参れ！

今すぐにじゃ！

はっ
はい……っ！
ただいま……



...恐れ多くも...

左様に
ございます



髪を
落としたのか

それは指南役を
降りるという
覚悟か





朝霧様……っ！
一体何が……っ

琥珀様
私に追放を
お命じ下さい

都から去れと



……
ほらの

……香凜が
困惑して
おるわ



朝霧様……！
だから
どうして……！

訳をお聞かせ
ください



朝霧

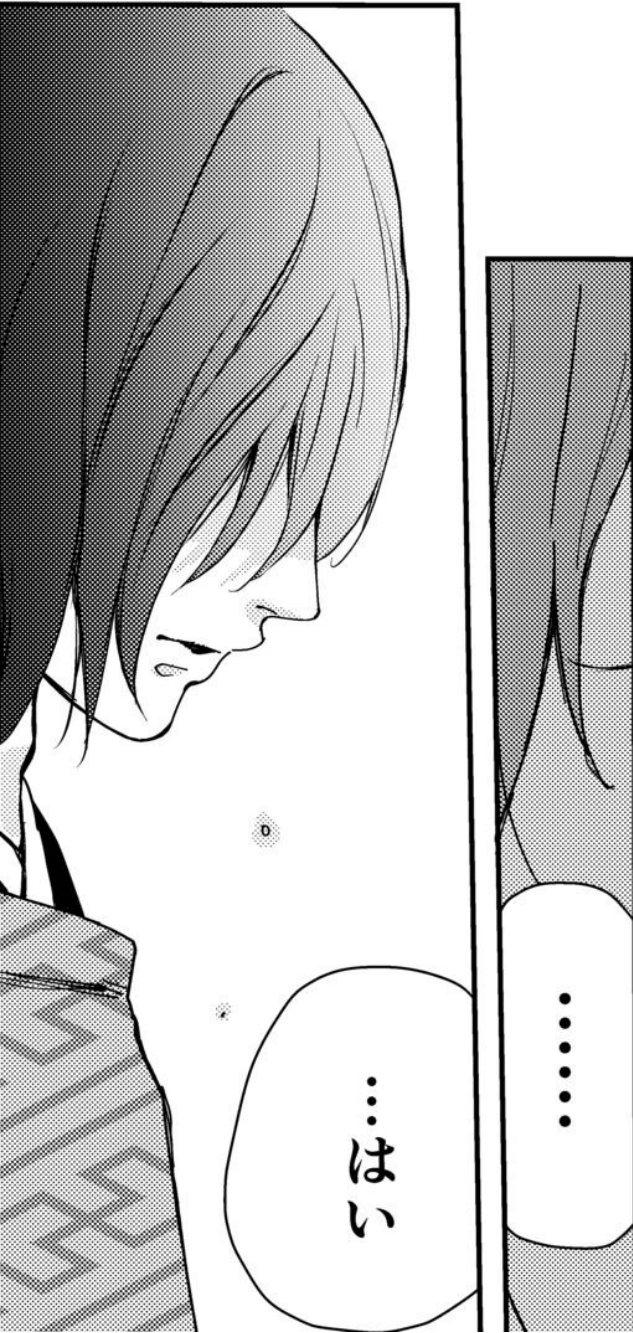
この際だから
全て話せ
包み隠さず

やめるなら
しかと理由を
説明するのが
筋じゃ



そうで
あろう？

……



……

……はい

…香凜様

私は…
わたくし

幼少の頃より

貴方様がいずれ帝に嫁ぐと
分かっていながら

え…？

貴方様を
ずっとお慕いして
おりました

そして自らの運命を
さだめ
知った時からずっと…



己の身の上に
苦悩して参りました



ずっと…

?

閨指南役?



そうや いずれ
お前が継ぐのじゃ
誉れ高いじやろう

こんな大役は
そうそうないぞ

朝霧

お前は
選ばれた人ぞ

心して励めよ

神の御子である帝の
神聖な閨

この上ない
誉れな役に違いない

でもそこに
^{はべ}侍るのが
香凛だなんて

何で
僕なんだ

さあ 今日
お勤めですよ
朝霧

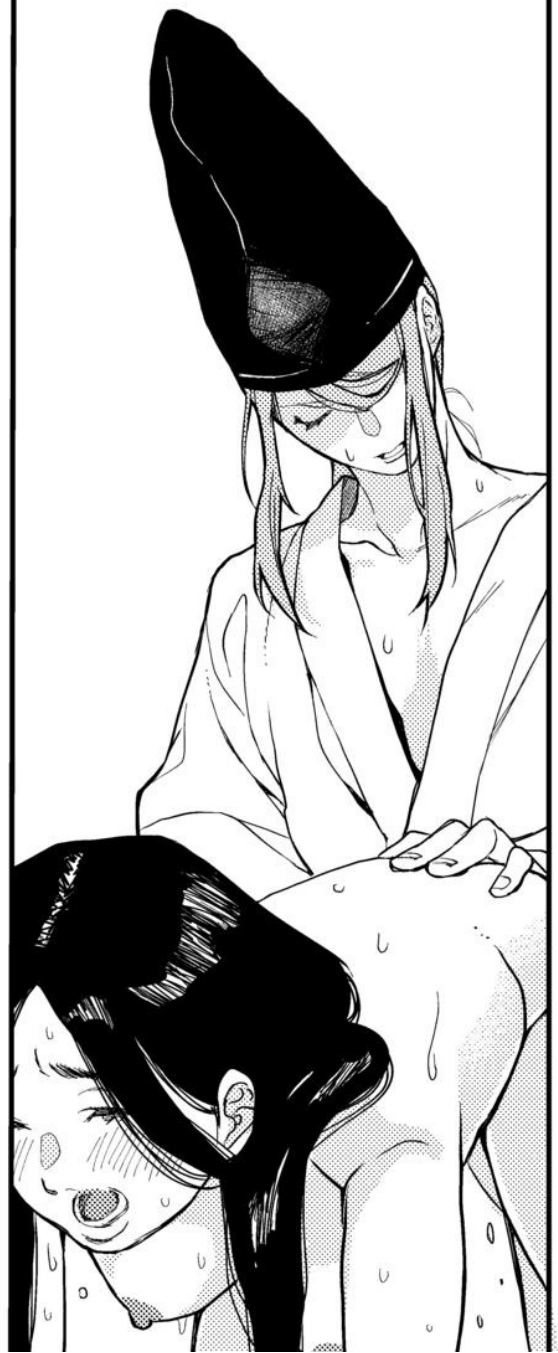
しっかりと
励むのです

.....

残酷だ、と
運命を呪った

いくら好きでも
香凛は決して
手に入らない

それどころか
香凛が他の男に抱かれる様を
この目で見なければ
いけないなんて



心の整理が付かぬまま
その日は来た



香凜は美しかった

恐れていた香凜の
その姿を見ても
努めて平静を装おった



耐え難くも責務を全う
する事に必死だった

それなのに

思ってもみない感情が
私の中で一気に芽吹いた





香凜様に触れられる
喜びです…

…こんなにも私は
香凜様を
求めていたのかと

こんな
形でも…

決して触れられぬと
諦めていた心に光が
差したようでした

しかしながら

指南役として
かような想いは
到底許されません
分かっております…

琥珀様

ですのどうか
私に断罪を

覚悟は
出来ております

……っ

……うむ
…そうか
事情は分かった

確かに…
仕方あるまい

朝霧に恨みはないが
やはり沙汰を言い渡す
しかなからう

おっ…

お待ち下さい！
琥珀様…！



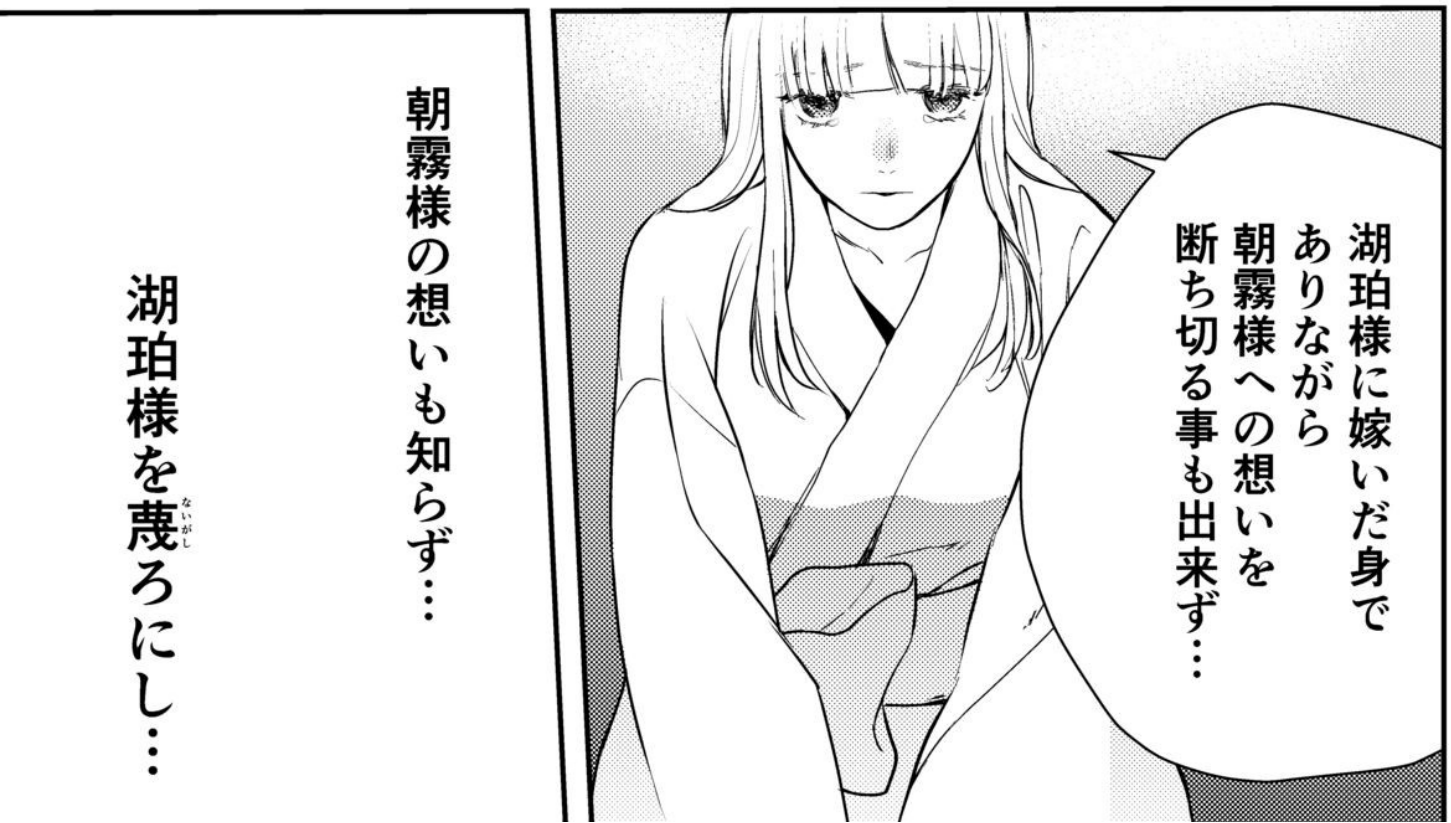
恐れ多くも…

それを言うなら
わたくし私にも
ございます…！

わたし私とてこれまで
朝霧様とずっと
同じ気持ちにございました…！



香凛…



湖珀様に嫁いだ身で
ありながら
朝霧様への想いを
断ち切る事も出来ず…

朝霧様の想いも知らず…

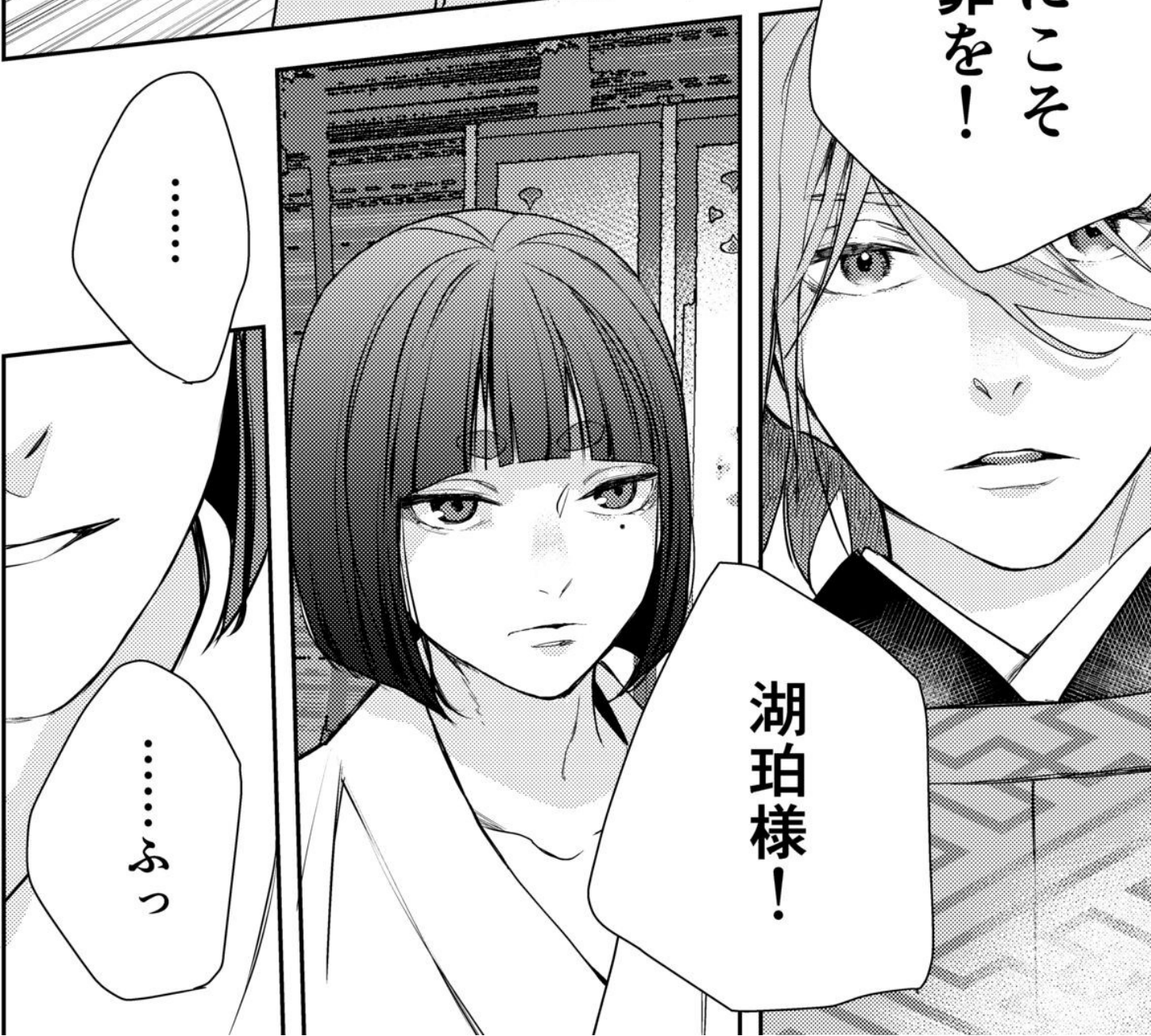
湖珀様を蔑ろにし…
ないがし



一番罪深いのは
私にございます！



私にこそ
断罪を！



湖珀様！

……ふっ

……

ふはは

えっ

ようやく二人とも
明かしたか

そんな事
初めから気付いて
おったわ

琥珀様…!!

ふはははは

わしが気付かぬと
思うたか

それこそ
幼少の頃より
気付いておったわ

え…？

そう
栗毛色の

可愛らしい
お方

あのお方が
香凛様よ

いつか貴方のお嫁さんになるお方

香凛…

いつも
香凛の視線の先には
当たり前のように
朝霧がおったからの

その逆も然り

遠くから見た方が
よく見える事も
あるじゃろうて

悔しい気持ちも
特に抱かなかった

さも当然のように
二人が想い合っていたからの

妙に達観していたのかも
しれぬ

それよりも

何とも
不憫な二人じゃと
思うておった

え……？

何しろその恋路の害が
わしなのじゃから

どうにもならぬ

生まれさえ
少し違えば

結ばれる道も
あった
だろうに……

琥珀様…！

障害などでは
ございません！

害などと
そのような事は…

害だなんて…

そんな悲しい事を
言わないで下さい…！

琥珀様…！

香凛…

確かに朝霧様に想いを
寄せておりましたが
琥珀様の良き伴侶になるつもり
でしたのも本当です！

朝霧様の事は
忘れるつもりで
輿入れしたのです

どちらか選べと
言われたら迷わず
琥珀様を選びます…！

そう心に決めて…

私はここに
来たのです…！

香凛…

…それも分かっておる
香凛の事は誰よりも
よく見ていたつもり
じゃからの

琥珀様…

だが許さん

…!

事情は分かるが
事実
は事実

帝の妃と
その指南役が
通じ合うなど
言語道断

たとえ既成事実が
なくともな

然るべき処罰を
与えねば
治らぬであろう



よって今
ここでわしが
直々に沙汰を言い渡す

なに
太政官らの
手を煩わせるまでも
なからう

良いか？

覚悟は

はい……！



朝霧

そなたは生涯変わらず
この指南役の任を
全うする事

わしが帝を
退くまでじゃ

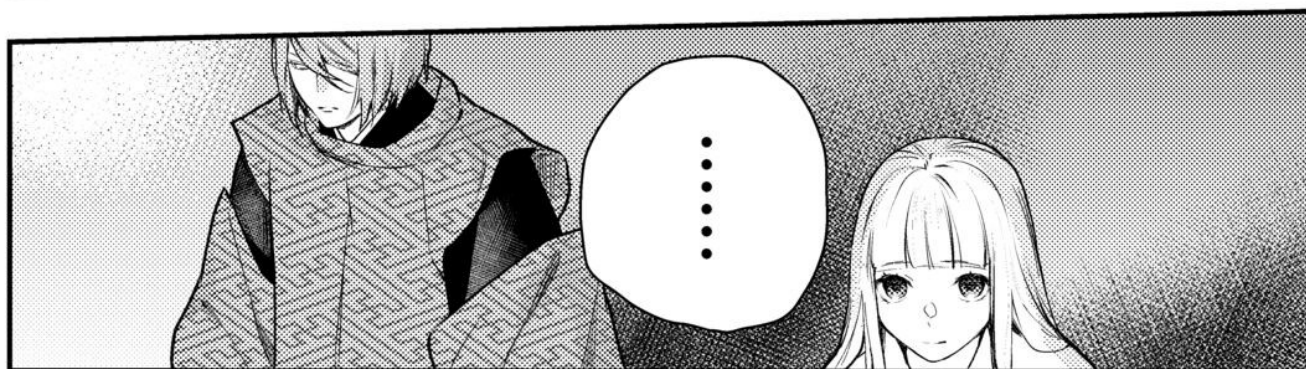
良いな



香凛
そなたも同様

今までと変わらず
帝の妃として
そこにあるように

良いな？



琥珀様……！

恐れ多くも……

そのどこが罰だと言うのです……!!

それでは何も変わらぬではありませぬか……!!

そうです！

琥珀様……！
一体どういうおつもりで……

ん？

何を言う

罰であろう

朝霧

お主は決して香凛を抱けぬのだから

子種の問題がある故そなたが香凛の中に入る事は許されぬ

決してな

お主は生涯
わしに抱かれる香凜を
間近で見続けるのみじゃ

二人が
交わる事はない

それは
そうですが…

それでは…

それとも
わしの目を盗んで
逢引きでもするか？

うス。

そのような事は
決して…！

でも
それでは…

それでは私は
今まで通り香凜様に
触れられてしまう…！！



愛する女子を
一生抱けぬという
地獄じゃ

十分すぎる
罰であろう？



香凛様を抱く事など
とうに諦めがついている

「触れられるだけで幸福」だと
知って尚 それを認めるというのか…！

このお方は…！

この
若さで…！

：湖珀様は
本当にそれで
良いので：

よい
よい

よいと
言うておる

この話は
もう終いじゃ
眠い

……

…なんという
寛大な…

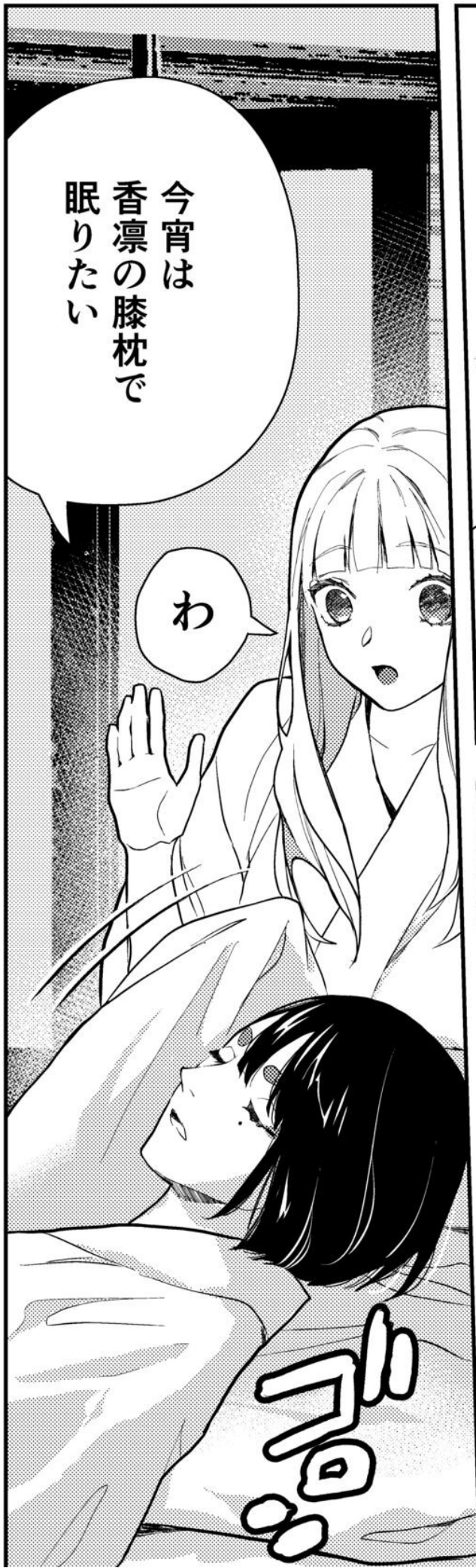


…謹んで…

謹んで
お受け致します…

そして湖珀様…
貴方様に…

間違いなく…
生涯お仕え
する事を…



今宵は
香凛の膝枕で
眠りたい

わ

カッ



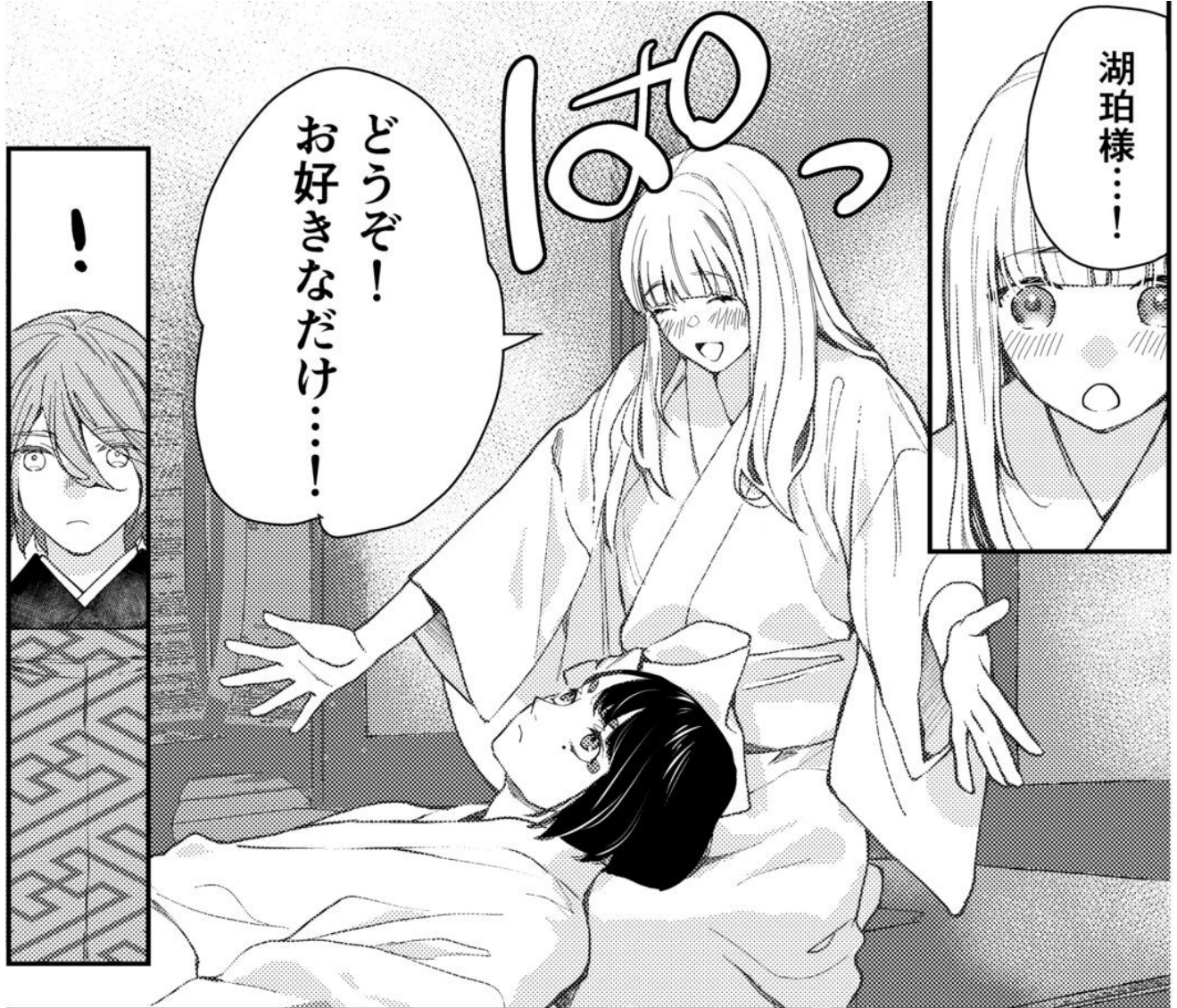
ははは
大袈裟じゃな
朝霧は

義理堅いのう



今宵は慣れぬ裁きの
真似事をして疲れたわ

さて
わしはもう眠い



琥珀様…！

どうぞ！
好きなだけ…！

！



わしはもう寝る
目を瞑る

琥珀様！



そう
目を瞑るのじゃ

閨では
目を瞑るもの
じゃからの



あまり羽目を
外すでないぞ？

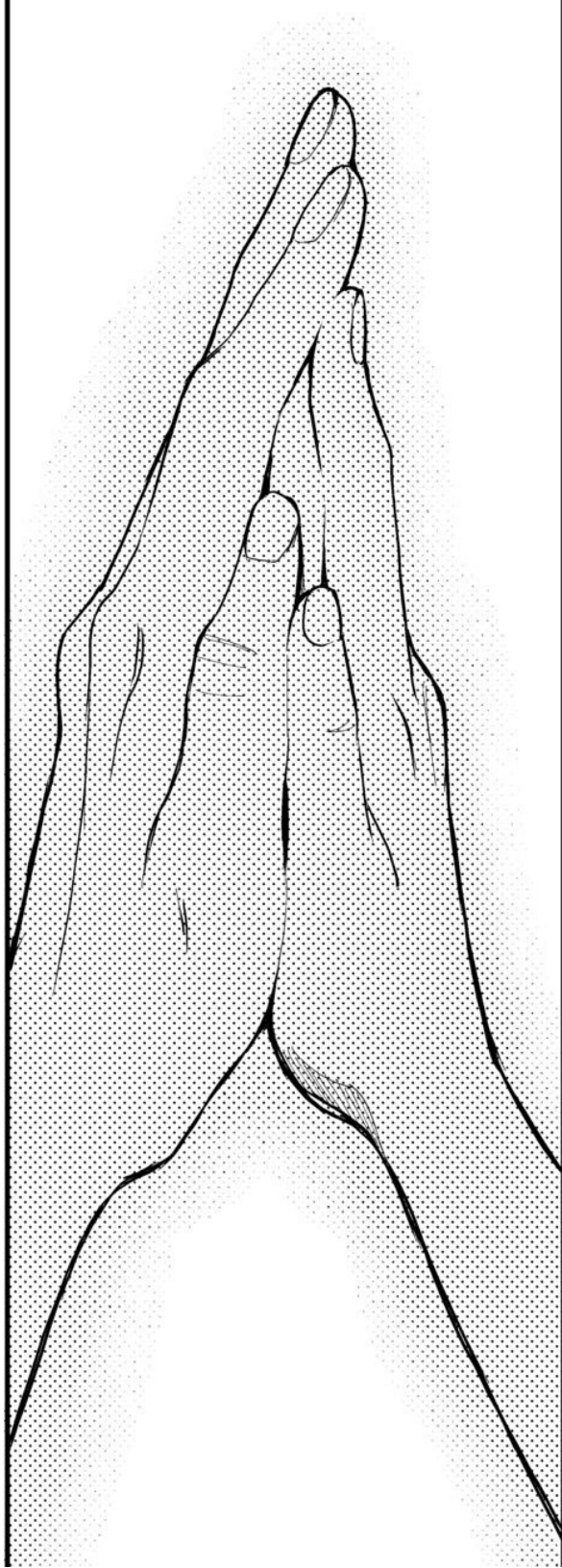
もちろんです！
琥珀様

皮肉な運命と
思っていたのに

この役が朝霧でなければ

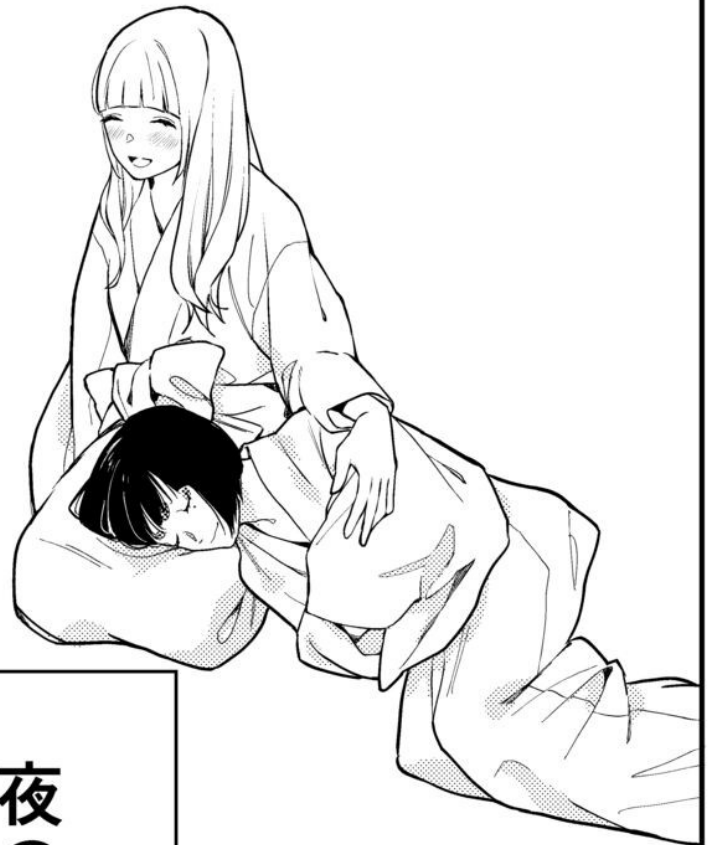
この役が私でなければ

きつと生涯
触れ合う事など
叶わなかった



永く切ない

そして愛しい



夜の始まり

よいよい

わしもいずれ
妾を撮る事
なるだろうからの

香凛に寂しい
想いをさせる
くらいなら

これで
よいのじゃ

おわり

ご購入頂きありがとうございます。

斑目りんと申します。

今回は創作和風という事で、架空の国設定でのお話となっています。

おかつぱの帝であったり、閨指南が幼馴染であったり等好きな設定を色々と盛り込んでみました。

シチュエーションのエロさみたいなのが少しでも表現出来ていれば幸いです。

描いていて楽しかったです。

ありがとうございました。

2023.06.19 斑目りん

Memo

・閨指南役はお妃様に配慮して極力男っさを出さないようにする。

「閨の君」ではなく「閨の方」・清潔感・スマートさ・長髪・

セミツ厳守。

・閨指南役の鍛錬のお相手は訳ありの人ばかり。

おかつぱ

神聖な閨

初めて同士の清い関係 ↔ 汚れた指南役

湖珀様 → まぐわいについてはほとんど知らされていないが
精通や自慰などに関しては教えられている
(自分の身体に関して)